

平成31年度

徳島大学大学院

総合科学教育部博士前期課程
地域科学専攻 IV期

学生募集要項

徳島大学

趣旨・目的・指針

21世紀の科学に求められる学際性・総合性を重視した徳島大学大学院総合科学教育部（博士前期課程および博士後期課程）が、平成21年（2009）4月に設置されました。

21世紀の社会に求められている持続可能な共生社会を構築するためには、われわれの自然観・社会観を正すことが不可欠です。そのためには、従来の細分化された人文・社会・自然系等の学問分野を超えて、諸科学の総合・融合を図り、学問の全体性を実現することが必要です。

総合科学教育部の理念は、総合科学である地域科学を、より広い領域で展開し、地域社会の人間環境・社会環境・自然環境を総合的に教育研究することにあります。すなわち、地域社会という対象を総合科学の方法で解明し、地域に開かれた「知の拠点」を構築すると共に、持続可能な共生社会づくりに資することにあります。

そうした趣旨・目的の下に、徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程には、地域科学専攻と臨床心理学専攻の2専攻を設けております。

地域科学専攻は、過疎・過密や環境破壊などの地域問題に対して、諸科学を総合して理論的・実践的な解を提供する教育研究を、地域創生分野・環境共生分野・基盤科学分野において有機的に展開し、地域社会の再生や環境共生型の地域づくりなどの課題を、理論的・実践的に解決できる教育研究者および実務家を養成します。

平成31年度 徳島大学大学院総合科学教育部
博士前期課程 地域科学専攻 IV期
学生募集要項

I. アドミッション・ポリシー

全学アドミッション・ポリシー

徳島大学は、その理念、目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、卓越した学術および文化を継承するとともに学びの志と進取の気風をもち、未来へ飛躍する人材を養成するため、課題に対し自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求めています。

○博士前期課程及び修士課程

- ・専門的知識と論理的思考を備え、明確な問題意識をもって研究を進める能力に加え、専門的な職業に従事できる高度な能力を修得しようとする人
- ・多様な情報を的確に把握し、自らの自由な発想でその真偽と活用を判断し、高い倫理観・責任感を身につけ、自立して行動しようとする人
- ・世界水準を目指す研究成果の発信により、地域を発展させる産業創出又は医療の深化・発展のために貢献しようとする人

総合科学教育部 博士前期課程地域科学専攻アドミッション・ポリシー

博士前期課程地域科学専攻では、人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え、地域科学の課題探究と地域社会の問題解決、持続可能な地域社会の構築に貢献する人材の育成を目指し、次のような人物を求めています。

●求める人物像

（知識・技能、関心・意欲）

- ・自らの専門領域を中心とした幅広い知識や技能を身につけた上で、総合科学の視点と、地域科学の課題探究に強い関心を持ち、将来、持続可能な地域社会の構築に関わる専門的な職業に従事することを志す人

（思考力・判断力・表現力等の能力）

- ・専門領域の知識・技能を活用して多様な情報を的確に把握し、適切な手法を用いて課題を解決する能力、及び自らの考えを論理的にわかりやすく表現する能力を有する人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

- ・高い倫理観と責任感を有し、多様な領域の人々と協働しながら、地域科学の課題探究と地域社会の問題解決、持続可能な地域社会の構築に主体的に取り組む意欲を持つ人

●入学者選抜の基本方針

- ・筆記試験では、主として各分野の専門領域に係る語学力を含めた知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価します。
- ・面接は口頭発表・口述試験を含み、知識・技能、関心・意欲、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性を総合して評価します。

Ⅱ. 募集人員

専攻名	Ⅲ期
地域科学専攻	若干名

*上記には、外国人留学生特別入試及び社会人特別入試の定員も含まれます。

Ⅲ. 出願資格

入学を志願することができる者は、日本語が理解でき、次のいずれかに該当する者として。

【一般入試】

- (1) 学校教育法第83条第1項に定める大学を卒業した者又は平成31年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者又は平成31年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者又は平成31年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は平成31年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は平成31年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 学校教育法施行規則第155条第1項第6号の規定に基づき、文部科学大臣が指定した者（昭和28年文部省告示第5号参照）
- (8) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は修了見込みの者
- (9) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本教育部において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者
- (10) 本教育部において、個別の入学資格審査により、第1号に規定する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成31年3月31日までに22歳に達する者

【外国人留学生特別入試】

上記(1)～(10)のいずれかに該当し、日本国籍を有しない者

【社会人特別入試】

地域科学専攻〔地域創生分野・基盤科学分野（文系）・基盤科学分野（理系）〕においては、

上記（１）～（７）のいずれかに該当し，平成３１年３月３１日までに２年以上の業務経験を有する者

地域科学専攻〔環境共生分野〕においては，上記（１）～（７）のいずれかに該当し，平成３１年３月３１日までに２年以上の業務経験を有する者。但し，官公庁，企業，教育機関等に原則として正規職員として在職し，指導を希望する専門分野において研究または実務の経験を有する者で，入学後も継続して職を有する者

※出願資格（９），（１０）の認定について

該当する志願者は，１１～１３ページの要領により入学試験出願資格審査を申請してください。出願書類は，本教育部において入学試験出願資格審査が終了するまで，その受理を保留します。

IV. 出願手続

(1) 提出書類等

【共通】：一般入試，外国人留学生特別入試，社会人特別入試について共通

【共通】 入学願書	所定の用紙に必要事項を記入してください。
【共通】 受験票・写真票	所定の用紙に必要事項を記入し，それぞれ同一の写真（最近撮影した正面，脱帽，上半身縦 5 cm，横 4 cmのもの）を貼ってください。
【共通】 研究分野の志望等調書	所定の用紙に必要事項を記入してください。
【共通】 口頭発表用資料	地域科学専攻に出願する者は，A4 版 2 枚以内で，自分の研究テーマに関わる内容の口頭発表用資料を 8 部（様式自由，カラー刷り可）作成し，提出してください。
【共通】 成績証明書	出身大学（学部）長が作成した成績証明書
【共通】 卒業（見込み）証明書	出身大学（学部）長が作成した卒業（見込み）証明書
【共通】 学位授与証明書等	出願資格（2）に該当する者は，独立行政法人大学評価・学位授与機構が発行した学士の学位授与証明書を添付してください。 出願資格（3）～（5）に該当する者は，学位記の写し等を提出してください。 ※出願資格（3）～（5）に該当する者で，学士の学位がない場合は入学試験出願資格審査が必要です。
【留学生】 履歴書	出願資格（3）～（5）に該当する者は，所定の用紙に必要事項を記入してください。
【留学生】 外国人登録原票記載事項証明書又は旅券の写し	外国人留学生として志願する者は提出してください。
【共通】 検定料払込証明書	検定料 30,000 円 検定料を郵便振込した後，受領した「検定料払込証明書（出願用）」を「検定料払込証明書」（本学所定の様式）に貼って提出してください。 なお，海外在住の志願者については，クレジットカード（VISA，Master Card，JCB，AMERICAN EXPRESS等）又は中国銀聯カードによる払い込みが可能です。海外からの出願方法等については「9 頁 XⅢ 徳島大学留学生ポータル」を参照ください。
【共通】 あて名票 3 枚	合格通知送付用封筒に貼るので，確実に受け取れる住所・氏名・郵便番号・電話番号を記入してください。
【共通】 受験票送付用封筒	所定の封筒に 362 円分の切手を貼り，自己の住所・氏名・郵便番号を明記したものを。

（注 1）出願書類のうち所定の用紙が必要なものは「平成 31 年度徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程学生募集要項」を取り寄せて記入してください。

（注 2）中国の高等教育機関を卒業した者は，学歴証明をオンラインで確認しますので，中国高等教育学生情報網（<http://www.chsi.com.cn>）で照会番号を取得し，履歴書に記載してください。

（注 3）出願書類のうち，日本語以外で書かれた証明書には，日本語訳を添付してください。

（注 4）志願者は，必ず出願前に，志望する指導教員と研究内容等について相談をしておいてください。

（注 5）指導教員を選択する場合の各教員の研究指導内容については，13 ページ以後を参照してください。平成 32 年 3 月末日までの退職予定教員は指導教員に選べません。

（注 6）国費留学生は検定料不要です。

(2) 出願期間

Ⅳ期 平成31年1月30日(水)～平成31年2月1日(金) (必着)

(3) 出願書類等の提出先

〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1番地 徳島大学総合科学部事務課学務係

(4) 出願方法

- ①入学志願者は、出願書類等を取りそろえ、出願期間内に持参又は郵送により出願してください。
- ②郵送の場合は、「書留」とし、封筒には「大学院入学願書在中」と朱書きしてください。
- ③持参の場合の受付時間は、9時～12時、13時～17時とします。
- ④出願期間を過ぎたもの及び出願書類に不備のある場合は受理しません。

(5) 受験票の送付

出願書類を受理したときは、本教育部受験票を、平成31年2月8日(金)までに着くように送付します。期限までにこれらの書類が到着しない場合は、必ず電話照会してください。(電話番号 088-656-7108)

V. 入学者の選抜

(1) 試験日程

Ⅲ期 入学者の選抜は、面接及び書類審査の結果等によって総合的に判断して行います。

【地域科学専攻】一般入試、外国人留学生特別入試、社会人特別入試

試験日	試験時間	試験科目等
平成31年2月19日(火)	9:00～	面接

(2) 試験科目等

地域科学専攻を志願する者の試験科目等

一般入試、外国人留学生特別入試、社会人特別入試

面接 口頭発表(5分間)と口述試験により行います。

(3) 書類審査

出身大学(学部)長が作成した成績証明書等を審査し、選抜判定の資料とします。

(4) 指導教員の選択

入学後志望する指導教員を記入してください。ただし、当該の指導教員に多数の志望者が集中した場合、必ずしも、当該の指導教員の指導を受けられないことがあります。指導教員を選択する場合の各教員の研究指導内容は次のとおりです。詳細については、13ページ以後を参照してください。平成32年3月末日までの退職予定教員は指導教員に選べません。

地域科学専攻（地域創生分野）

*印は平成32年3月末日までの退職予定者を示します。

*印が付いた教員は指導教員に選べません。

	担当教員	指 導 内 容
教授	荒武達朗	中国近現代史に関する研究
	石田基広	テキストデータに関する統計・機械学習の研究
	佐藤充宏	地域のスポーツ振興方策に関する研究
	高橋晋一	日本および東アジアの民俗宗教に関する研究
	豊田哲也	都市問題や地域格差に関する経済地理学的研究
	中村 豊	日本および東アジア考古学研究
	平木美鶴	絵画表現に関する研究
	三浦 哉	身体活動による生活習慣病・介護予防に関する研究
	矢部拓也	地域社会やまちづくりに関する研究
	山口鉄生	運動器疾患と予防医学に関する研究
准教授	掛井秀一	情報通信技術の空間デザインへの適用に関する研究
	河原崎貴光	メディアアートと現代美術の制作
	小田切康彦	地方自治体の政策に関する研究
	佐原 理	映像デザインに関する研究
	田口太郎	まちづくりプロセスに関する研究
	塚本章宏	地理情報システム（GIS）・空間情報科学に関する研究
	土屋 敦	地域医療と地域福祉に関する社会学研究
	内藤直樹	地域文化の動態と開発・援助に関する研究

地域科学専攻（環境共生分野）

	担当教員	指 導 内 容
教授	今井昭二	環境試料中の有害微量元素と機器分析に関する研究
	栗栖 聡	環境政策と持続可能な社会に関する研究
	浜野龍夫	水産生物や希少生物の増殖や保全の研究
	真壁和裕	動物の発生と進化に関するゲノム科学的研究
	松尾義則	生物の適応進化機構の研究
	眞弓浩三*	エネルギー分析と資源環境経済学の研究
	横井川久己男*	微生物の制御に関する研究
	渡部 稔	両生類初期胚を用いた形態形成・遺伝子発現調節の研究
准教授	金丸 芳	食品由来資源の機能性と有効利用の研究
	川上竜巳	極限環境微生物酵素の機能構造応用
	佐藤高則	特殊環境細菌酵素の構造機能と有効利用に関する研究
	佐藤征弥	農作物の病気の遺伝子診断技術の開発
	服部武文	森林微生物の代謝機能を基とした木質資源の保全と利用
	山城 考	被子植物の種分化と分類
	山本 孝	固体酸触媒、酸化物系機能性材料の開発および物性評価
講師	上野雅晴	環境にやさしい有機合成化学反応の開発研究

地域科学専攻〔基盤科学分野（文系）〕

	担当教員	指 導 内 容
教授	スティーヴン・クリ ティス・アソ	韻律論、語用論（Brown and Levinson's (1987)に基づくポライトネス理論）、英 語
	田久保浩	18-19世紀イギリスの文化、思想と文学、映像と文学を通じたナラティブの理論
	宮崎隆義*	トマス・ハーディを中心とする英国19世紀小説の研究
	依岡隆児	グローバルな視点からの比較文学・比較文化研究
	山口裕之	フランス近現代哲学に関する研究
准教授	上原克之	行政法の基礎理論の研究
	趙 彤	マクロ経済学及び人口経済学に関する研究
	富塚昌輝	日本近現代文学に関する研究

地域科学専攻 〔基盤科学分野（理系）〕

	担当教員	指 導 内 容
教授	安間 了	フィールドを中心とした地層・地殻の変形およびマグマの発生と流動の研究
	井澤健一	素粒子の理論的模型や初期宇宙インフレーション理論に関する研究
	今井昭二	光を用いる機器分析と微量元素分析に関する研究
	大淵 朗	代数曲線上の特殊線形系の理論とブリル＝ネーター理論
	小笠原正道	遷移金属触媒による新規立体選択的有機合成反応の開発と応用
	小野公輔	非線形現象の数値モデルに関する研究
	片山真一	代数的整数論および暗号理論への応用の研究
	小山晋之	強相関電子系の新規物性（超伝導と磁性）に関する研究
	齊藤隆仁	金属間化合物超伝導体の核磁気共鳴実験による研究
	蓮沼 徹	グラフの構造的性質の解明とその応用に関する研究
	伏見賢一	宇宙暗黒物質の探索実験
	真岸孝一	強相関電子系物質の特異物性に関する研究
	三好徳和	ストロンチウムを用いる新規有機合成手法の開発
	村上公一	非線形力学系のダイナミクスの研究
	村田明広*	三波川帯・秩父帯の地質構造と地すべりの研究
	守安一峰	一様・非一様双曲性に関連した微分力学系の研究
	准教授	青矢睦月
中山慎一		組み合わせ問題を解くアルゴリズムに関する研究
西山賢一		地表環境下での地形・地質プロセスと災害に関する研究
山本 孝		固体酸触媒、酸化物系機能性材料の開発および物性評価
講師	上野雅晴	環境にやさしい有機合成化学反応の開発研究

VI. 合格者の発表

平成31年3月7日(木)10時

徳島大学総合科学部玄関前に掲示するとともに、合格者には、本人あて文書により通知します。
なお、電話等による可否についての照会には応じません。

(注) 合格者情報は、本学部ホームページ

<http://www.tokushima-u.ac.jp/ias/>

に掲載します。ただし、ホームページの内容と本学部に掲示する合格者が異なる場合は、掲示による合格者発表を正しいものとします。

Ⅶ. 入学手続き

入学手続きについては合格者に別途通知します。

なお、入学後に職業を有する方は、入学手続き時に勤務先の所属長の承諾書を提出してください。（様式任意）

授業料等学生納付金

(1) 入学料		282,000円
(2) 授業料	前期分	267,900円
	年額	535,800円
(3) その他の経費		53,750円

(注1) 在学中に授業料が改定された場合には、改定時から新授業料が適用されます。

(注2) 上記については現行の金額であり、改定されれば改定金額が適用されます。

(注3) 入学料、授業料ともに、経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業が優秀と認められる者又は風水害等の特別な事情がある者は、選考の上、全額又は半額の免除が認められる制度があります。

(注4) その他の経費には後援会費、総合科学部振興会費、渭水会費、学生教育研究災害傷害保険料が含まれます。

Ⅷ. 障がいのある入学志願者との事前相談について

受験上及び修学上特別な配慮を必要とする者は、あらかじめ相談が必要ですので、下記の期日までに本学総合科学部学務係へ申し出てください。

(1) 相談の期限 平成31年1月16日(水)まで

(2) 相談の方法

次の①～⑧を記載した申出書(様式は任意)を提出してください。必要に応じて、志願者又はその立場を代弁しうる出身学校関係者との面談を行います。

- ①住所、氏名、連絡先
- ②出身学校
- ③志望専攻・受験科目
- ④障がいの種類・程度
- ⑤受験上特別な配慮を希望する事項
- ⑥修学上特別な配慮を希望する事項
- ⑦出身学校でとられていた特別措置の内容
- ⑧日常生活の状況等

なお、参考のために健康診断書の提出を依頼する場合があります。

Ⅸ. 入学許可の取り消し

(1) 合格者が、入学手続き完了後に大学等を卒業できなかった場合には、入学許可を取り消します。

(2) 出願書類及び入学手続き等に関する書類等について、虚偽のものを提出したこと、又はその他の不正な事実が判明したときは、入学後であっても、入学許可を取り消すことがあります。

X. 欠員補充の方法

入学定員に欠員が生じた場合は、次の方法により欠員補充を実施することがあります。

(1) 追加合格

追加合格を実施する場合は、平成31年3月8日（金）以降に入学願書の「連絡先」に直接通知します。追加合格の実施の有無については、平成31年3月8日（金）から、本学部ホームページ <http://www.tokushima-u.ac.jp/ias/> で情報提供を行います。

(2) 欠員補充第2次募集

欠員補充第2次募集実施を決定した場合には、平成31年3月8日以降に、本学部ホームページ <http://www.tokushima-u.ac.jp/ias/> で情報提供を行います。

X I. 個人情報取り扱い

出願書類等に記載された氏名、生年月日、その他の個人情報については次の目的をもって、本学が管理し、他の目的での利用及び本学の関係職員以外への提供は行いません。

①入学者選抜、合格通知及び入学手続等の入試業務

②合格者の入学後の教務関係（学籍管理、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、奨学金援助、就職支援等）、授業料等に関する業務

また、入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計、分析及び入学者選抜方法の調査、研究（入試の改善や志願動向の調査、分析等）のために利用します。

X II. 社会人学生の学修と研究及び教育方法の特例について

(1) 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育（夜間開講等）について

通常、官公庁・企業等において勤務している社会人が博士前期課程で学ぶ場合、2年間完全に勤務を離れ、学業に専念することになります。この修学条件を満たすことが難しい社会人学生に対しては、大学院設置基準第14条に「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」ことが規定されているため、この制度を利用して教育方法の特例を実施します。

(2) 長期履修学生制度について

学生が職業を有しているなどの事情により、通常の学生に比べて年間に修得できる単位数が限られるため、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する者に対して、申請に基づき、大学が審査し、その長期にわたる計画的な履修を認め、その在学期間中の授業料の負担を軽減することができる制度です。

例) 3年間の履修計画により申請し、審査で承認された場合、標準修業年限2年間の授業料と同額を、許可された3年間かけて納入することになります。

XⅢ. 徳島大学留学生ポータル

徳島大学ホームページに、外国に住んでいて徳島大学へ留学を希望している方のために開設した「徳島大学留学生ポータル」サイトがありますので、お知らせします。

学部・大学院の概要，教員，研究者紹介，入学までの手続き，各種奨学金，留学生宿舎，就職・進路などを説明しています。

このサイトにより，徳島大学を知るための参考としてください。

徳島大学のトップページ → 外国から留学希望の皆様へ（左側中段バナー） →
徳島大学留学生ポータル(<http://admission.isc.tokushima-u.ac.jp/>) → 大学院への留学

XⅣ. その他

- (1) 入学願書受付後は，提出した書類の変更及び検定料の払い戻しはしません。
- (2) 入学願書を郵便で請求するときは，250 円分の切手を貼った自己宛（住所・氏名・郵便番号明記）の返信用封筒（角2封筒 33.2cm×24.0cm）を同封の上，本学総合科学部事務課学務係へ申し込んでください。
- (3) 出願手続きその他に関して疑問の点がある場合は，返信用封筒（住所・氏名・郵便番号を明記し，郵便切手を貼ったもの）を同封の上，下記へ文書で照会してください。
なお，受験票受領後提出する書類には，すべて氏名の上に受験番号を明記してください。

照会先

〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1番地
徳島大学総合科学部事務課学務係

- (4) 本学ホームページ（下記 URL）もご参照ください。
<http://www.tokushima-u.ac.jp/ias/>

出願資格（9）により出願する者の資格審査について

大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本教育部において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者

審査は書類審査のため学歴（高等教育機関）、資格等について証明するものを必ず添付してください。（本学で受けた教育についても証明が必要です。）

1. 大学に3年以上在学し、本教育部において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者

提出書類

- ①出願資格審査申請書（所定の用紙に必要事項を記入してください。）
- ②出願資格審査調書（所定の用紙に必要事項を記入してください。）
- ③研究分野の志望等調書（所定の用紙に必要事項を記入してください。）
- ④在学証明書
- ⑤在籍大学の学業成績証明書（最新の学業成績が記載された証明書で厳封したもの）
- ⑥在籍大学の大学学部・学科の履修要覧（要項等）
- ⑦在籍大学の受験承諾書
- ⑧返信用封筒（長3封筒 23.5cm×12.0cm）
362 円分の切手を貼り、郵便番号・住所・氏名を明記すること

2. 外国において学校教育における15年の課程を修了し、本教育部において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者

提出書類

- ①出願資格審査申請書（所定の用紙に必要事項を記入してください。）
- ②出願資格審査調書（所定の用紙に必要事項を記入してください。）
- ③研究分野の志望等調書（所定の用紙に必要事項を記入してください。）
- ④最終出身大学の修了証明書
- ⑤最終出身大学の学業成績証明書
- ⑥推薦書（最終出身大学の学科主任、指導教員等が記載し、厳封したもの）
- ⑦返信用封筒（長3封筒 23.5cm×12.0cm）
362 円分の切手（*）を貼り、郵便番号・住所・氏名を明記すること
*返信先が日本国外の場合、日本から自国までのEMS送料分の切手または国際返信切手券（International Reply Coupon）を同封すること

3. 提出期間

平成31年 1月15日(火)～平成31年 1月16日(水)17時まで(必着)

（郵送の際は書留郵便とし、封筒表面に「出願資格審査申請書類在中」と朱書してください。）

4. 提出先 〒770-8502

徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部事務課学務係

5. 出願資格審査結果の通知

平成31年1月23日(水)までに本人あて通知します。

※提出書類に関する注意

1. 日本語以外で書かれた証明書等には，日本語訳を添付してください。
2. 中国の高等教育機関を卒業したものは，学歴証明をオンラインで確認しますので，中国高等教育学生情報網（<http://www.chsi.com.cn>）で照会番号を取得し，出願資格審査調書に記載してください。

出願資格（10）により出願する者の資格審査について

本教育部において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成31年3月31日までに22歳に達するもの

審査は書類審査のため学歴（高等教育機関）、資格等について証明するものを必ず添付してください。（本学で受けた教育についても証明が必要です。）

1. 提出書類

- ①出願資格審査申請書（所定の用紙に必要事項を記入してください。）
- ②出願資格審査調書（所定の用紙に必要事項を記入してください。）
- ③研究分野の志望等調書（所定の用紙に必要事項を記入してください。）
- ④高等教育を受けたことを証明するもの（卒業証明書、在学証明書等）
- ⑤高等教育の全期間の学業成績証明書
- ⑥論文、著書、報告書、学会発表資料、研究レポート等（コピー可）、指導教員等の推薦書があれば必ず添付してください。また、関連する専門資格・技能検定の証明書等があれば必ず添付してください。
- ⑦返信用封筒（長3封筒 23.5cm×12.0cm）
362円分の切手（*）を貼り、郵便番号・住所・氏名を明記すること
*返信先が日本国外の場合、日本から自国までのEMS送料分の切手または国際返信切手券（International Reply Coupon）を同封すること

2. 提出期間

平成31年 1月15日(火)～平成31年 1月16日(水)17時まで(必着)
(郵送の際は書留郵便とし、封筒表面に「出願資格審査申請書類在中」と朱書してください。)

3. 提出先 〒770-8502

徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部事務課学務係

4. 出願資格審査結果の通知

平成31年 1月23日(水)までに本人あて通知します。

※提出書類に関する注意

1. 日本語以外で書かれた証明書等には、日本語訳を添付してください。
2. 中国の高等教育機関を卒業したものは、学歴証明をオンラインで確認しますので、中国高等教育学生情報網（<http://www.chsi.com.cn>）で照会番号を取得し、出願資格審査調書に記載してください。

学位論文に関する大学院担当教員の指導内容

地域科学専攻（地域創生分野） *印は平成32年3月末日までの退職予定者を示します。
*印が付いた教員は指導教員に選べません。

	担当教員	指導内容
教	荒 武 達 朗	中国近現代史、台湾史、中国社会研究を中心とした研究指導を行う。主に中国語、日本語で書かれた文献を精読することで、適切な資料を探す力、その資料を読みこなす力、歴史上の出来事を分析する力を養う。そのことを通じて歴史研究を行う上での基礎的な能力の習得に努める。
	石 田 基 広	本演習では、テキストマイニングによるデータ解析を指導する。テキストマイニングとは、Web上に公開されている各種テキストや自由記述形式のアンケートなどを対象としたデータ解析技法である。テキストマイニングを実行するためには、自然言語処理に加えて、データマイニングについての理論と技術を習得することが必要になる。本演習では、受講者自らが選んだテキストデータセットを対象に、それらにふさわしい処理と解析技法を検討し、その実現と解析結果の執筆を指導する。
	佐 藤 充 宏	スポーツ社会学や地域計画の範囲内で、地域における健康体力づくりやスポーツ振興の社会基盤整備の課題として、地域住民のクラブ組織の育成方針に焦点をあてる。住民による地域クラブの運営手法や事業評価法のあり方を検討し、住民の健康活動を相互扶助しあう関係性の構築を目指した「健康・体力」によるコミュニティ・デザインの研究をしていく。フィールドワークやモニタリングを重視し、地域の健康計画や支援方を理解した専門家を養成するため学会発表やNPO等の活動にも参加させ指導を行う。
	高 橋 晋 一	文化人類学・民俗学的視点に基づく修士論文の作成のための指導を行う。先行研究の批判的検討の上に適切な研究テーマを設定、文献研究を進めるとともにフィールドワークを行い、そこで得た資料を核に分析を進める。研究の主眼は国内外の特定地域の地域文化の構造や意味を客観的に解明することにあるが、研究成果が地域づくりや地域環境整備など、より実地的な社会・地域貢献にもつながるよう、可能な範囲で指導を進めていきたい。
授	豊 田 哲 也	経済地理学的視点にもとづき、地域の空間構造や社会経済問題について、実証的な調査・分析をおこない、報告書や研究論文を作成する能力を養成する。受講者はさまざまな地域的課題への知識や関心を深め、問題の所在を明らかにした上で、テーマにふさわしい対象地域と研究手法を選択する。文献調査、統計解析、地図解析、現地調査、インタビュー、アンケート調査などを通じ、データの収集と分析をおこなうプロセスを重視し、各段階に応じて討議と助言をおこなう。また、研究成果は学会での発表だけにとどまらず、地域社会へ還元できるよう指導する。
	中 村 豊	先史時代～古代（文献史料出現期）を中心とする日本および、東アジア考古学研究と関連する諸研究について修士論文作成のための指導をおこなう。 自然地理学（地形環境と人間の相互作用）や地学（災害と考古学、石材の流通）、生物（人類の動植物利用史、農耕の起源）など、他分野と関わりを持つ領域についても積極的に指導したい。 先行研究の批判的検討とともに、徳島地域をフィールドとする発掘調査・遺跡踏査・資料調査をおこない、そこで得た資料に基づく研究および、その過程で得た方法論を他の東アジア諸地域において遂行できるよう研究指導をおこないたい。
	平 木 美 鶴	絵画表現について自己の作品をもとにして、絵画の歴史、理論も含め考察する。また、地域のまちおこしを芸術的な発想や作品等で貢献していく活動等についても研究する。
	三 浦 哉	修士論文作成に必要な健康・スポーツ科学に関連する分野の専門知識、研究方法を教育すると共に国内外の著書・研究論文の文献レビューを行い、現在の社会的諸問題を考慮に入れながら、「新規性のある課題の設定」、「課題解決の手法の選択」といった研究計画を策定する能力、「実験の遂行」、「データ分析・解析」、「結果の解釈」を通じて論理的に知見を考察し、問題点を把握する能力をそれぞれ養う。さらに、研究成果を効果的に発表できるプレゼンテーション能力、適切に論議できるディスカッション能力も養う。

	担当教員	指導内容
	矢部 拓也	修士論文の指導にあたっては、受講者が、実際の地域社会の現場から構想する力をつけてもらいたいと考えている。現在の地域社会研究で求められているのは、現在起きている地域社会の問題に敏感であり、その問題を明確化し、地域社会の分析を行うことで、地域課題解決の方法を明らかにすることである。そのためには、受講者が自ら研究課題と調査対象地を選定し、実際の地域社会の調査研究を行う必要がある。矢部は、受講者が調査研究を遂行できるように調査対象地や課題の選定、調査方法、分析方法など具体的な方法を示しながら指導を行ってゆく。
	山口 鉄生	ミクロからマクロにわたる総合的な視点から運動器傷害にアプローチする。具体的には、1. 超音波装置による運動器（軟骨、筋腱）の形態・機能評価、2. 傷害の予防につながる動作解析、3. 分子生物学、のいずれかを習得し、そのために必要な知識を学ぶ。研究成果をわかりやすい形で現場と臨床にフィードバックすることを目的とする。
准	掛井 秀一	情報通信技術の空間デザインへの適用について、技術的側面と社会的側面との両面から考察し、探求できるような研究の指導を行う。具体的にはコンピュータやネットワークの中だけで閉じてしまうマシン指向メディアではなく、人間が活動する空間に埋め込み、ユーザーとインタラクションすることで機能する実世界指向メディアの設計及び構築を通して、自ら考え、積極的に行動する研究者の育成を目指した指導を行う。
	河原崎 貴光	メディアアート、現代美術、写真表現、映像表現、絵画表現、漫画表現、ゲーム、等の所謂メディア芸術と呼ばれるフィールドにおいて発表することを前提とした作品制作と研究を行う。作品制作における各自のテーマをつかみ、メディア、テクノロジーへの俯瞰の視点を持ち具体的な表現へと結びつけるため、自作に関する論文制作と学外での作品発表を平行して行う。
	小田切 康彦	日本の地方自治体が抱える問題を取り上げ、その問題の解決策について公共政策学的視点からアプローチするための研究指導を行う。受講生が関心を持つ政策問題に関連する諸理論への理解を深めると同時に、問題が生じている実際の現場に接近し、実証的・実践的な観点からそれらを捉える能力を涵養する。その上で、政策問題をいかに解決するのか、解決策を考案し、その成果を修士論文としてまとめることを目標とする。
	佐原 理	フィールドワークやデザイン思考を基盤に映像およびビジュアルコミュニケーションデザイン領域などの制作過程を通して地域社会における課題発見を行い、解決の方法論へと還元するクリエイティブなネレッジマネジメント能力を養う。その研究過程を修了研究論文としてまとめ、さらに、映像、グラフィック、メディアアート、デザインプロダクト等によって地域社会にアウトプットする。
教	田口 太郎	地域における実践的な取り組みを通じて、理論と実践の双方の視点を持ちながら地域の状況に応じた地域戦略の立案手法についての修士論文作成を指導する。そのため、文献レビューなどの座学にとどまらず自ら地域づくりのフィールドを設定した上で、実際の関わりを持ちながら実践的な手法を身につける。特に、調査分析にとどまらず「計画」に強い目的意識を持ちながら学び、国内外での学術発表なども行う。
	塚本 章宏	地理情報システム（GIS）および空間情報科学に関する修士論文の作成を指導する。空間的視点を踏まえた研究テーマを設定し、資料収集、GISデータの作成方法、情報の視覚化および高度なGIS分析技術、そして有益な結果を導く考察力を体系的に修得することを目指す。また、GIS分析によって得られた成果を地域の課題として提示するだけでなく、関連する学術分野での貢献を目指し、学会での発表に向けた指導も行う。
授	土屋 敦	医療・福祉社会学の修士論文の執筆作業を進めることを最大の目的とする。その際に、論文で求められる調査作法を使いこなせるようになることに力点を置く。博士前期課程では、研究対象の絞り込み、先行文献の検討、分析手法の精査、調査フィールドの選定、および調査対象者へのアクセスの仕方までを各自が行ってもらおう。
	内藤 直樹	グローバリゼーションのなかの地域文化の動態や可能性について、文化人類学的な立場から理解・記述・介入するための理論と方法論を習得し、フィールドワークによる実証的な資料にもとづく修士論文を執筆してもらおう。まず民族誌的記述に関する理論と方法論を教授する。そして文献とフィールドを往還し、私的な興味・関心を「研究」に昇華する方法を教授する。なおフィールドは国内／海外を問わないが、私自身は北東アフリカ（ケニア・南スーダン・ソマリア）の乾燥地域における生業・開発・平和構築を専門にしている。将来の研究・教育者や国際協力の専門家を育てるため、関連学会やNGO・NPOへの参加を推奨する。

地域科学専攻（環境共生分野）

	担当教員	指導内容
教	今井 昭二	微量元素は、環境、鉱工業、生活および公衆衛生等において重要性であり地域特性も顕著である。多くの場合、測定には機器分析が主軸をなしているが正確さと精度の観点において多くの課題が残る。その原理についてはイオン、分子および元素の分析化学的研究の課題として扱われ、特に電磁波-物質相互作用や静電的相互作用などを利用した機器分析と分析機器、また分解・分離・濃縮などの前処理などを含めた原理的、基礎的または地域と社会が抱える課題に対する応用的研究について指導する。
	栗栖 聡	政治学・政治理論・政策学にかかわる基本概念や分析枠組みを踏まえた上で、特に環境問題の解決に向けた環境ガバナンスのあり方を検討し、論文作成につなげるように指導する。想定されるテーマとしては、エコロジー的（熟議・参加）民主主義、エコロジー的シティズンシップ、自由主義国家と環境国家の比較、持続可能な社会論、政治イデオロギーとしてのエコリズム論、フーコーの統治概念を踏まえた環境ガバナンス論などが挙げられる。
	浜野 龍夫	環境にやさしく持続可能な農林水産業の振興に役立つ研究、地域おこしに寄与しうる生物資源を保全し増殖させるための研究を進める。地域の生物の生態や農林水産業の実体を調査し、資源管理、資源育成、環境保全、環境マネジメントなどの視点から問題点を抽出し、その現実的な解決を行うための研究を指導する。基礎研究から成果の実用化や事業化までを総合的に考え鳥瞰的な視点で問題解決ができる人材の育成をめざす。
	真壁 和裕	動物の胚が多様な自然環境と細胞内外の微小環境との間でどのような調節を通して秩序だった組織を形成していくのか、そのときゲノム情報の機能がさまざまな環境の影響下でどれほど安定または不安定に実行されるのかについて学ぶ。高次生命現象における物理化学的・分子生物学的・生態学的・進化的な種々の環境要因間の相互作用の影響を、ゲノムの発現情報発現制御という観点から考察する。専門的基礎知識に加えて資料・データの解析・発表技術を指導し、課題設定能力を有する人材の育成をめざす。
授	松尾 義則	生物の適応と進化のメカニズムをDNAなどの分子レベルと集団の両レベルで理解することを目指し、自然選択、突然変異、移住、遺伝的浮動などの要因についての専門知識や遺伝子解析、集団解析の技術を身につけさせる。修士論文に関する生物多様性、集団の進化、遺伝子レベルでの変異の維持機構、分子進化などの解析方法、研究結果のまとめ方、プレゼンテーション等の能力を習得できるよう指導する。
	眞弓 浩三*	まず、資源環境経済学特論及び同演習の内容と学生の興味を考慮に入れて学生と討論し、研究目的を明確に設定しながら資源環境経済学分野から修士論文のテーマを選択する。次に研究目的とテーマに合わせて、研究計画の作成を指導する。その際、選択したテーマに関連する国内外の先行研究を十分に把握し、独自の視点を修士論文に盛り込めるように学生を指導する。具体的な研究の方法論、資料やデータ収集、分析道具やデータ処理についても同時に検討する。学術上なんらかの独自性を盛り込めるように修士論文を作成し、結果を学術雑誌に投稿できるように指導する。
教	横井川 久己男*	地域特有の産業廃棄物の効率的処理や有効利用等と地域特有の農産物の用途開発等を目的として、地域環境の改善を微生物学や食品学の立場から研究する能力を教授する。また、様々な地域環境に生息する微生物の分離法と同定法を教授すると共に、有用微生物のスクリーニング法や育種法に関する研究手法を教授する。さらに、研究課題の設定方法、高度な実験方法、データの統計的解析方法、課題のまとめ方、発表方法ならびに修士論文作成法等を指導する。
	渡部 稔	分子生物学的な手法を用いてシグナル伝達系と転写調節の機構の研究を行い、高次の生命現象である動物の初期発生のしくみを理解することを目指す。先行研究の論文を熟読することにより課題と方法を考察し、自分自身の実験計画の立案、実施、データの解析・考察を行う。これらを通じて、修士論文を作成する上での基本的な知識・技術を習得することを目標とする。

	担当教員	指導内容
准 教 授	金丸 芳	地域の生物資源による生体調節機能や生体への影響を検討し、地域資源を有効利用する研究を行い、研究の構築と修士論文作成を指導する。地域資源による細胞への作用や細胞応答を検討する方法・技術や思考能力を養成する。生体と環境との関わりと適切な資源利用を思考し、環境と生体の恒常性を保つ施策を考察する技能を養成する。生命の健康や環境保全や地域の活性化を遂行し、社会に貢献できる人材を育成する。
	川上 竜巳	高温・低温、酸性・アルカリ性など、生命は存在しないといわれていた極限環境にも多様な微生物が存在し生命活動を行っている。これら極限環境微生物が生産する酵素は潜在的な資源であり、その有効活用が期待されている。酵素化学、遺伝子工学、構造生物学などの実験手法を利用して、極限環境微生物酵素の機能構造を解析し、応用するための技術と知識を教授する。これらの実験・研究を通して、研究課題の設定法、結果の解釈の仕方、修士論文作成法、プレゼンテーション法などを指導し、論理的に問題を解決できる能力を育成する。
	佐藤 高則	好熱性細菌などの自然界に生育する特殊環境微生物を有効利用するためには、構成要素の分子レベルでの理解が不可欠である。これら微生物の産生する酵素・タンパク質の構造-機能相関やその環境適応機構と、その有効利用に関する研究指導、修士論文作成の指導を行う。そのために、研究および修士論文作成に必要な文献読解力、生化学・タンパク質化学・タンパク質工学に関する実験技術や解析・研究法、プレゼンテーション能力、生体分子レベルでの問題解決能力を教授する。
	佐藤 征弥	環境汚染の激しい地域に生息する生物における様々な解毒メカニズムの解明とその利用について、また地域の人々に祀られている巨樹の歴史の解明について、など地域に則した研究テーマを大学院生と相談して設定し、修士論文作成のための研究及び論文作成の指導を行う。関連する分野のこれまでの研究成果と自身の実験・調査結果の比較検討を行いながら、研究テーマを発展させてゆくプロセスについて考察を深めていく。また、関連する文献や参考図書の見直しを行いながら討議する。このような過程を経ながら、修士論文執筆の指導を行う。
	服部 武文	きのこの代謝化学を基盤とした、森林保全および木質の総合利用に関する研究を指導する。森林において樹木の生育を助けるきのこ、倒木を腐朽し土に還すきのこの機能を生化学、有機化学、分子生物学的手法により解明する。その知見を基に、再生可能資源としての木質を、生物多様性を保全しながら作り、無駄なく使い、樹木に還す、「循環的利用」を達成する研究を行う。問題点を見出す力を涵養し、解決法の導き方を指導する。
	山城 考	徳島県に自生する高等植物の種分化・分類・保全に関する諸問題点について、文献や現地調査を通じて解説を行う。さらに、比較形態、生態学、分子系統学的手法を用いた実験や調査を行うことで、野生生物を解析する手法を習得出来るようにする。
	山本 孝	物理化学的手法に基づいた固体触媒、環境浄化材料の物性評価、原子レベルでの局所/電子構造解析、反応ダイナミクス、新材料開発、小型分光分析装置の開発と応用等の研究を行う。実験事実および根拠に基づいた議論を徹底させるとともに、研究のオリジナリティを意識させる。一連の研究指導を通じて論理的思考力、データ解析力、プレゼンテーション力、理科系文書の作成術、情報収集力、問題解決力、課題探求力の向上をはかる。
講師	上野 雅晴	実践的なグリーンケミストリーの開発を目指して、有機溶媒を用いない有機合成反応の開発、多段階連続合成による廃棄物ゼロを目指す有機合成反応の開発といった研究テーマを設定し、研究を通じた経験を重視した指導を行う。文献詳読による関連分野の知識習得、研究計画策定、様々な実験技術の体得、結果の考察、研究発表といった化学者を目指す上で基本的な知識及び技術の習得を指導し、将来自身のアイデアを具体化できる人材の育成を目指す。

地域科学専攻 [基盤科学分野 (文系)]

	担当教員	指導内容
教授	スティーヴンズ, メディン イブ	韻律論として、英語の持つリズムとイントネーションから、意味伝達における韻律の役割を研究する。また語用論では、ブラウンとレヴィンソンが説いたポライトネス理論(1987)に基づき、様々な発話行為を参照しながら意味伝達の間接性を調査研究する。さらに英語読書指導論として、読書による理解に聴解が果たす役割を調査研究する。
	田久保 浩	記号論、文化表象、ナラティブの理論についての基本的な理解のための文献講読を行う。また、映像メディア、文学、報道等について、フィクション、ノンフィクションにかかわらず、個々のテキストがどのようなナラティブ(物語)を作り、それがどう受容され、社会的効果を及ぼすのかという問題について、分析研究をするための指導を行う。
	宮崎隆義*	主に19世紀英国小説を取り上げ、対象となる作品の精読と分析を通して、それに独自の論考を加えながら修士論文としてまとめてゆくことを到達目標とする。作品の芸術性を分析することを通して、そこに込められた人間の精神文化の表層と深層を読み解くことを考える。関連する文献の渉猟と精読を通し、文化事象としての作品を広く文化の中で捉えることをめざしながら、成果として修士論文としてまとめてゆく。
	山口 裕之	フランス近現代哲学を中心とした研究指導を行う。フランスの17~20世紀の哲学思想は、デカルトの合理主義やコンディヤックの経験主義が近代自然科学の理論的基礎付けとなり、ルソーの社会契約論が民主主義の理論的基礎付けとなったように、現代社会の構造を規定するものである。当時の哲学文献の講読することで、「われわれの思考を規定しているもの」を反省し相対化することにつなげたい。
	依岡隆児	主として比較文化的観点から地域科学を研究する。総合的な文化研究を目指していく比較文化の手法を身につけ、受講生が自らの主体的問題意識から個々の事例に即しつつテーマを追求し、論文にまとめていくようにする。特にドイツ文学や比較文学をベースに、文化における地域性と国際性の関連や欧米の事例との比較で見た地域社会における多文化共生の問題、近代化・西洋化における伝統文化の問題、異文化間の相互影響関係の問題などからテーマを見つけることになろうが、課題は各人の課題発想的態度からみつめることを基本とする。
准 教 授	上原克之	法律学、とりわけ行政法学の観点から修士論文作成のための指導を行う。行政法を中心とする法学諸領域にかかわる基礎的な諸概念、思考方法、行政学、政治学等関係社会科学の理解を前提として、先行諸業績や判例等の関係資料の収集、分析、批判などの手法を獲得しながら適切な研究課題の設定に助言し、研究計画に従った研究を指導する。想定される研究テーマとしては、行政法の一般理論、一般理論を前提とした、地方自治、環境、都市、警察などの行政諸活動および行政のコンプライアンスにかかわる法的分析などが挙げられる。
	趙 彤	経済学を用いた現実経済とそれに対応する政策の分析を受講者に実際に行ってもらおう。そのための文献収集や分析のテクニックを教員がサポートする。経済学特論および経済学特論演習を必修とする。理論経済学の基礎知識をマスターした上、受講者とともに経済開発・発展に関する文献を中心に輪読し、研究計画を立て、論文の作成方法や分析方法を適切に指導する。
	富塚 昌輝	日本近現代文学を対象とした研究指導を行う。日本の近現代に書かれた文学作品を広く読むことを通して日本近現代文学の特質を多面的に把握すると同時に、文学理論や文化理論について書かれた文献を読み込むことで文学作品を多様な観点から読解する能力を涵養する。そこで習得された専門的な知識や能力に基づいて、受講生が自ら研究課題を発見・創造し、独自の考察を行い、その成果を論文としてまとめることを目指す。

地域科学専攻 [基盤科学分野(理系)]

	担当教員	指導内容
教 授	安間 了	島弧地殻の形成過程と変形、マグマの発生と移動・集積過程、海洋底地質学、文化地質学などに関するテーマの研究を通して、さまざまな時間・空間スケールで生じる地質現象への理解を深める。自己の設定した問題の解決に必要な分析・解析法に習熟するとともに、主張をわかりやすく発信できる能力を身につけることを目標とする。地震・津波・噴火・土砂災害など、人間生活に密接に関わる地質災害のフィールドワークを通して、地域の防災や危機管理に貢献できる人材を育成する。
	井澤 健一	相対論的な場の量子論を学び、それに基づく研究課題に関する修士論文を作成する学生を指導する。具体的には、素粒子の理論的なモデルや初期宇宙インフレーションの理論について、その構成的側面や量子論的な内容の解析を取り扱う。素粒子モデルに関しては、対称性の実現に着目しつつ、それを有効理論の観点から捉えて、標準モデルを超える理論の素粒子現象に対する効用を考察する。インフレーションに関しては、その基本的な構造及び量子論的な側面を観測事実とあわせて検討し、宇宙の起源を探る。
	今井 昭二	微量元素は、環境、鉱工業、生活および公衆衛生等において重要性であり地域特性も顕著である。多くの場合、測定には機器分析が主軸をなしているが正確さと精度の観点において多くの課題が残る。その原理についてはイオン、分子および元素の分析化学的研究の課題として扱われ、特に電磁波-物質相互作用や静電的相互作用などを利用した機器分析と分析機器、また分解・分離・濃縮などの前処理などを含めた原理的、基礎的または地域と社会が抱える課題に対する応用的研究について指導する。
	大 淵 朗	基本的には基礎的研究と位置づけられる「代数曲線上の特殊線形系の基底とその特殊値」の問題、「代数方程式の(代数曲線上で定義された)超越函数による解の公式」などがテーマになるが、イノベーション創出という側面に於いて、いかなる研究がありえるかという側面にも配慮する。具体的には、コンパクトディスク(CD)のバーストエラーからの誤り訂正を行う符号としてオランダフィリップス社(とソニー)のCD開発チームが実用化の際に用いたリードソロモン符号の発展研究である代数曲線符号と線形系との関わりの研究などのテーマである。勿論、線形系を用いて、ノビコフ予想に出るヤコビ多様体の判定条件を考えることなど線形系自体の問題も主要である重要なテーマと見なす。
	小笠原 正道	多くの生理活性物質/機能性物質は複雑な構造を有しており、それらの化合物を効率良く得るには、「原子を三次元空間の狙った位置に配列する合成技術」が必要となる。本研究室では、そのような「新規立体選択的有機合成反応」を、有機金属触媒を用いて開発することを目指している。具体的には、新規な有機金属化合物・試薬・触媒の設計と合成、それらを用いる素反応の開発、さらには、素反応の組立てにより新しい触媒サイクルの構築を主眼において研究を進めている。また、開発した合成反応を利用し、機能性材料の開発も進めている。修士課程においては、有機金属化合物を取扱う実験技術の指導、研究を展開するロジックの指導を行う。
小野 公輔	自然現象や社会現象の解析にはその現象ごとに対応する数理モデルが利用され、数理学で開発された理論や手法が利用される。それらの数理モデルの考え方や研究手法の修得を目指しながら、基本となるモデル方程式の考察を行うとともに、関数解析学や非線形科学で知られている関数の評価式や埋蔵定理などの基本定理への理解を深めていく。また、関連する文献や学術論文をセミナー形式で講読し、研究テーマとして扱う数理モデルに応用する能力を高め、修士論文の完成を目指す。必要に応じて研究発表や修士論文執筆のための助言と指導を行う。	

担当教員	指導内容
片山 真一	代数的整数論の基礎と応用，特に暗号へ応用について学ぶことを目標とする。代数体での類数，単数について具体的な代数体（特に2次体）での計算を実行するために連分数展開等のアルゴリズムについて学ぶ。また代数体の類数，単数，L関数の特殊値の計算とその応用について学ぶ。さらに暗号理論に関して，公開鍵暗号系の仕組みについての基本を学んで，RSA暗号，楕円曲線暗号とその背景の剰余環の理論，楕円曲線の群構造について学習し代数学の応用についての考察を深める。
小山 晋之	二段階転移を示すセラミックス超伝導体や非BCS超伝導等の異常物性を示す強相関電子系，及びこれらの異常現象を利用した新機能材料開発に関する研究テーマを大学院生と相談しつつ決定し，この研究方針に沿って，研究計画を立て，新物質探索および新奇現象の探索を中心に具体的な研究を開始する。必要に応じて，基礎的な教科書の輪講や関連する最近の論文の紹介を行う。得られた実験結果および解釈を議論することにより，学会・研究会発表の指導，修士論文執筆の指導を行う。
齊藤 隆仁	強相関系を中心とした超伝導の発現機構解明を目標として掲げる。具体的には酸化物高温超伝導体，金属間化合物超伝導体，フラーレン化合物などの超伝導性，金属性などに関する研究テーマを大学院生と相談しつつ決定し，試料作成，結晶構造解析，電気伝導性・磁性の物性評価，核磁気共鳴などの実験を計画する。実験結果を分析，解釈し，他実験や理論との比較検討を行うことにより学会・研究会発表の指導，修士論文執筆の指導を行う。
蓮沼 徹	ネットワーク構造をもつ対象をグラフとしてモデル化することにより，その対象上の諸問題をグラフの構造的性質として考察することができる場合がある。このようなグラフの構造的性質には様々なものがあり，例えばネットワークの耐故障性に関連する構造的性質として，完全独立全域木，多彩色，本型埋め込み，キューレイアウト，辺素ハミルトン閉路等を挙げることができる。グラフの構造的性質について，文献調査により既知結果の現状を把握し，研究の方向性と具体的なテーマを選定し考察を進め，最後に考察結果をまとめる。といった一連の流れを通して研究指導を行い，問題発見能力，柔軟な発想及び論理的思考力を養成する。
伏見 賢一	まず，ニュートリノ検出，宇宙暗黒物質探索，原子核構造および環境放射能の研究テーマについて詳細に議論し，文献調査を通して修士論文の新規性，学会や社会に対するインパクトを考察する。その後，放射線計測技術を応用した検出器開発および実験を行って結果の検討考察を進め，地域環境の保全，管理の手法について指導する。
真岸 孝一	多種多様な機能性を示す固体物質の中で，強い電子相関が働く遷移金属化合物や希土類化合物などの強相関電子系物質において出現する特異な磁性や超伝導などの研究テーマについて考え，文献講読や核磁気共鳴法を中心とした実験的手法により，微視的な電子状態と特異な物性や機能性との関係を探求することを通して，研究の進め方・課題のまとめ方・論文の作成方法などの基礎的能力を養成する。また，必要に応じて，学会・研究会などでの発表の方法についても指導する。
三好 徳和	現在，環境に配慮しない有機合成反応は社会に受け入れられない。そこで，環境に配慮した，新しい有機合成手法の開発に関する研究指導を行う。必要な化学的知識や実験技術を修得するため，新着論文の講読を行い，また，実験結果の解析，作業仮説の立て方と研究の進め方を指導し，将来必要となる実質的な研究開発能力の基盤を養成する。さらに，専門分野のみならず周辺領域を理解する目を養い，総合科学型研究の追究を指導する。これにより修士論文執筆の指導を行う。
村上 公一	非線形力学系のダイナミクスと分岐理論について研究指導する。自然現象や社会現象をモデル化した常微分方程式，差分方程式，反応拡散方程式などを対象に，計算機による数値シミュレーションと数式処理システムを援用して，平衡解の安定性や分岐現象に関する理論的な解析を行う。さらに，理論的結果と数値実験の結果を照らし合わせて検証することにより，非線形力学系の解析手法についての理解を深めていく。

担当教員	指導内容	
村田明広*	秩父帯や四万十帯の付加帯で見られるデュープレックスなどの衝上構造や、衝上断層によるナップ構造の形成メカニズムに関する修論を指導する。特に、四国中西部・中央部地域や東部地域の秩父帯で、三波川変成作用後に形成された大規模衝上断層の位置の特定と、その特性に関する研究指導を行う。また、領家帯や和泉層群分布域で、中央構造線活断層系やその周辺の活断層に関して、第四紀における総変位量と最近の活動性から活断層の総合的評価を行う研究など、四国の地域地質学と地質環境に貢献できる研究を指導する。	
守安一峰	1次元または2次元といった低次元力学系を通じて、力学系理論とは何かを学び、カオス、安定性、双曲性などの基礎的な概念を理解する。その上で、扱う相空間を一般の微分可能多様体に広げ、その上の微分力学系がもつ一様双曲性と非一様双曲性の相違点や応用、そして位相的な性質などについて考察を行う。そのために、基礎的な教科書や関連する最近の論文の講読を行う。これらを通じて、論理的な思考能力や探求心を養う。	
准 教 授	青矢睦月	三波川変成帯に見られる複数段階の塑性変形（主に褶曲や剪断帯として認識される）の野外、及び顕微鏡規模での解析方法を習得する。また顕微鏡規模では変成鉱物組み合わせや個々の岩石が辿った変成履歴を検討し、複数の変形ステージが変成履歴の中でどのようなテクトニックイベントに位置づけられるかを検討する。これらの情報を総合し、三波川変成帯の形成・上昇過程に対する制約条件を得ることを目標とする。
	中山慎一	ネットワークを設計するにあたり重要なことは、コストや物理的制約のもとで、利用者が満足する通信サービス品質を提供できるようにネットワークを構築することである。本演習では、まず最初にネットワーク設計に必要なとなる数学的知識である、待ち行列理論やグラフ・ネットワーク理論について学ぶ。理論的な知識を身につけた後、ネットワーク設計に関するグラフ・ネットワークアルゴリズムについて学ぶ。そして最終的に、ネットワークに関する研究を行い、それを通して将来必要となる研究能力を養成する。
	西山賢一	修士論文の研究を通じて、地表を構成する岩石が風化によってその物性を変化していく一連のプロセスと、その結果、斜面につくられた風化帯が豪雨・地震動により削剥されるプロセスについて研究を進め、論文としてまとめる。研究テーマと調査対象フィールドは、院生と相談しながら研究方針を確立し、研究の進め方を指導する。具体的には西南日本の山地・平野を対象とし、野外調査と室内分析を平行して進め、得られたデータを総合的に判断するとともに、研究論文としてまとめる能力を養う。
山本孝	物理化学的手法に基づいた固体触媒、環境浄化材料の物性評価、原子レベルでの局所／電子構造解析、反応ダイナミクス、新材料開発、小型分光分析装置の開発と応用等の研究を行う。実験事実および根拠に基づいた議論を徹底させるとともに、研究のオリジナリティを意識させる。一連の研究指導を通じて論理的思考力、データ解析力、プレゼンテーション力、理科系文書の作成術、情報収集力、問題解決力、課題探求力の向上をはかる。	
講 師	上野雅晴	実践的なグリーンケミストリーの開発を目指して、有機溶媒を用いない有機合成反応の開発、多段階連続合成による廃棄物ゼロを目指す有機合成反応の開発といった研究テーマを設定し、研究を通じた経験を重視した指導を行う。文献詳読による関連分野の知識習得、研究計画策定、様々な実験技術の体得、結果の考察、研究発表といった化学者を目指す上で基本的な知識及び技術の習得を指導し、将来自身のアイデアを具体化できる人材の育成を目指す。